

## 学長定例記者会見要項

日 時： 令和元年6月20日（木） 11：00～11：45

場 所： 法人本部第二会議室（小白川キャンパス法人本部棟4階）

### 発表事項

1. 山形⇄神奈川 櫛でつなぐ未来人材育成プロジェクト  
～内閣府「地方と東京圏の大学生対流促進事業」に採択～
2. 上山市におけるさくらんぼ収穫適期判断支援システム試行  
～非破壊計を用いた樹上果実の糖度／酸度計測&可視可～
3. 山形大学COIプロジェクトに2回連続で「S」評価（JST中間評価公表）  
～有機ELや生体センサを軸に、地域に根ざし「生活イノベーション」の実現を目指す～

### お知らせ

1. 第15回学長特別講演会「観光立国日本、地方が日本を引っ張る時代」を開催
2. 「農場市」6月27日（木）よりスタート！
3. 地域教育文化学部公開講座「データサイエンス入門」を開催
4. “東北野生動物管理研究交流会 in やまがた”を開催します

### （参 考）

- 次回の学長定例記者会見（予定）

日 時：令和元年7月4日（木） 11：00～11：45

場 所：法人本部第二会議室（小白川キャンパス法人本部棟4階）

## 学長定例記者会見（6月20日）発表者

### 1. 山形⇄神奈川 襷でつなぐ未来人材育成プロジェクト ～内閣府「地方と東京圏の大学生対流促進事業」に採択～

プロジェクト担当 学術研究院 教授

しもだいら ひろゆき  
下平 裕之

// 学術研究院 准教授

まつぎか のぶひろ  
松坂 暢浩

### 2. 上山市におけるさくらんぼ収穫適期判断支援システム試行 ～非破壊計を用いた樹上果実の糖度／酸度計測&可視可～

学術研究院 准教授（理学）

おくの たかし  
奥野 貴士

### 3. 山形大学 COI プロジェクトに2回連続で「S」評価（JST 中間評価公表） ～有機EL や生体センサを軸に、地域に根ざし「生活イノベーション」の実現を目指す～

学術研究院 教授（有機太陽電池・有機エレクトロニクス）

さの たけし  
佐野 健志

令和元年（2019年）6月20日

## 山形⇔神奈川 櫻でつなぐ未来人材育成プロジェクト ～内閣府「地方と東京圏の大学生対流促進事業」に採択～

### 【本件のポイント】

- 内閣府の2019年度「地方と東京圏の大学生対流促進事業」※に採択。  
(採択件数は本学含め2件)
- 神奈川大学と協働して、山形県の魅力の発信や学生同士の交流を促進するプログラムを実施し、若者の県内定着を目指す。
- 地方と東京圏、国立と私立という異なった視点での教育や学生同士の交流などを通じて、多様性を理解し、俯瞰的視点を持った未来人材を育成。



### 【概要】

山形大学が神奈川大学、山形県及び山形県中小企業家同友会と共同で申請した人材育成プロジェクトが内閣府の2019年度「地方と東京圏の大学生対流促進事業」に採択されました。(事業期間は2019年度から2022年度の4年間(補助期間は2020年度までの2年間)、補助金額は13,000千円/年)

この事業は、地方への新しい人の流れを生み、地方創生の実現につなげることを目的としており、採択された本学の「櫻でつなぐ未来人材育成プロジェクト」では、単位互換による国内留学制度やフィールドワーク、インターンシッププログラムへの受入を軸に、東京圏の大学生に山形県の魅力を発信し、山形県の企業に就職したい学生を支援します。また、地方と東京圏の異なる環境に身を置く両大学の学生の交流により、多様性を理解し、次世代を担う未来人材の育成を目指します。

本学と神奈川大学は4月18日に包括的連携協定を締結しており、本事業の採択により、両大学の連携を加速させ、双方の発展と山形県の地方創生に貢献することが期待されます。

### 【櫻でつなぐ未来人材育成プロジェクト\*】

協働大学：神奈川大学

参加公共団体・企業等：山形県、山形県中小企業家同友会

取り組み内容：エリアキャンパスもがみ等、山形大学で実施しているフィールドワークや山形県中小企業家同友会と協力して行っているインターンシップに神奈川大学の学生に参加してもらうことで、山形県や地方中小企業の魅力を知ってもらい、山形県へのUターンやIターン就職を支援します。

また、地方と東京圏の異なる環境に身を置く両大学の学生の交流により、多様性を理解し、次世代を担う未来人材の育成を目指します。

\*プロジェクト名には、本学を含めてプロジェクトに関わる4つの組織が相互に「櫻」でつながっている状態をイメージし、また、地方と東京圏という場所を限定しない教育の受け方や価値観の創造により、未来的な人材を育成し、地方に若者を定着させる目的を込めました。

### 【今後の展望】

今年度は、フィールドワークに10人程度、インターンシップに5人程度の受け入れを目標としています。現在、神奈川大学の卒業生で山形県への就職者数は年間10人程度ですが、このプログラムを実施することで、最終目標50%増加を目指しています。

さらに全プログラムを通じて、4年間で200人程度の学生が両大学を往來することを目標としています。

本プロジェクトにより、人間力の高い、俯瞰的視点を持った次世代形成を担える未来人材を育成し、山形県への若者の定着を支援することで、山形県の地方創生に貢献することが期待されます。

お問い合わせ

山形大学 教育・学生支援部学務課 (松田・山口)

TEL 023-628-4840 メール k-gakumu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

※「地方と東京圏の大学生対流促進事業」について

「まち・ひと・しごと創生総合戦略（2017 改訂版）」にて、「地方大学と東京圏の大学の単位互換等により学生が地方圏と東京圏を相互に対流・交流する取り組みを促進する」することとされたことを受け、内閣府において「地方と東京圏の大学生対流促進事業」を実施し、事業に取り組む大学を補助金により支援するもの。

詳細は、Web サイトをご覧ください。

[https://www.kantei.go.jp/jp/singi/sousei/about/tairyuu\\_sokushin/index.html](https://www.kantei.go.jp/jp/singi/sousei/about/tairyuu_sokushin/index.html)



令和元年（2019年）6月20日

## 上山市におけるさくらんぼ収穫適期判断支援システム試行 ～非破壊計を用いた樹上果実の糖度/酸度計測&可視化～

### 【本件のポイント】

- 上山市農林夢づくり課と奥野研究室（理学部）は、さくらんぼ（佐藤錦）の収穫適期判断支援システムの試行を開始
- 果実非破壊測定器を用いて、収穫前の樹上のさくらんぼ（佐藤錦）の糖度/酸度（約3,000個）を定期的に計測し、果実成熟度合いのデータを可視化
- 低コスト、高効率の果実生産/出荷システムの開発と社会実装が期待されるとともに、果実/果樹の新しい生理活性の発見にも期待



### 【概要】

産地全体の果実の成熟状態の定期的な果実調査は、地域の果実生産を支える大切な役割を果たしています。地域の果実状態を正確に把握するには、できるかぎり多くの地点でより多くの果実のデータを取得することが求められます。しかし、果実を調査するには膨大な時間と果実のロスが生じるため、計測数にある程度の制限がありました。昨シーズンより、上山市の農林夢づくり課と奥野研究室（理学部）が共同研究（試行）により、果実非破壊測定器を用いて効率的に樹上の果実の成熟度の調査し、収穫適期判断を支援できる手がかりを得ました。今シーズンは、上山市内の代表的な生産地区（5箇所）にて、調査期間中、佐藤錦（約3,000個）の果実調査を実施し、収穫適期判断支援システムの実証を進めています。さらに、今シーズンの収穫適期への利用だけでなく、データを蓄積し、将来の果実生産に役立つ情報に利用します。

### 【背景】

山形県のさくらんぼ生産技術は非常に高く、キメ細やかな生産管理と出荷システムが確立されています。丁寧なモノづくりが、山形を支えています。果実生産において、産地内の果実の成熟状態をきめ細やかに把握し、適切な時期に収穫、出荷することで、産地果実の品質向上が期待されます。しかし、産地内の果実状態の調査に必要とする人材とコスト面での負担が大きく、産地の果実調査にかかる時間と労力の効率化が課題とされています。

### 【研究手法・研究成果】

産地内の果実成熟状態を網羅的に把握するため、2018年4月より、上山市農林夢づくり課と奥野研究室（理学部）が共同で、非破壊果実測定器を用いた果実状態の計測とデータ解析、可視化にむけて研究を進め、果実の糖度と酸度の測定データから、視覚的に収穫に適した時期を判断することができるシステムを開発しました。昨年の開発をうけ、今シーズンは生産者がリアルタイムに産地の果実成熟状態を把握し、佐藤錦の生産/出荷管理に利用できるか検証しています。

調査期間：2019年6月7日～6月28日

対象：上山市のさくらんぼ果樹園（5箇所）の佐藤錦 約3,000個

方法：樹上果実の糖度/酸度を計測/データ加工し、成熟の推移を生産者に配信

### 【今後の展望】

膨大なデータに基づいた、低コスト、高効率の果実生産/出荷システムの開発と社会実装が期待できます。また、社会実装だけではなく、収集するデータ数の増加とデータの質を高め、集積することで、これまで明らかにされていなかった果実/果樹の新しい生理活性を発見することも大いに期待されます。

お問い合わせ

学術研究院准教授 奥野貴士（理学）

TEL 023-628-4580 メール okuno@sci.kj.yamagata-u.ac.jp

**【サポート】**

この取り組みは、山形大学 YU-COE (C) 「山形大学データサイエンス推進拠点」のサポートを受けて実施しております。

令和元年（2019年）6月20日

## 山形大学COIプロジェクトに2回連続で「S」評価（JST中間評価公表） ～有機ELや生体センサを軸に、地域に根ざし「生活イノベーション」の実現を目指す～

### 【本件のポイント】

- 山形大学COIプロジェクトが中間評価で「S」評価
- 3年ごとに行われる中間評価で、前回に続く高評価
- 高齢者・地域の「生活イノベーション」、「スマート高齢化社会」の実現をビジョンに掲げ有機エレクトロニクス、生体センサ、食品加工などの分野で、新たな製品やサービスの開発及び社会実装を目指す。



### 【概要】

科学技術振興機構（JST）が、センター・オブ・イノベーション（COI）プログラム（2013～2021年度、全国18拠点）の第二回中間評価を公表し、今回の評価でも山形大学は第一回（2016年度）に続き、「S」評価（評価ランクは、S、A、B、Cの4段階）を獲得しました。COIプログラムは、将来社会のニーズを基に10年後のあるべき社会の姿を設定し、革新的な技術の実用化を目指して、産学連携による研究開発を集中的に行う事業です。山形大学COIプロジェクトには、現在、25機関（21社、4研究機関）が参画しており、高齢者・地域の「生活イノベーション」、「スマート高齢化社会」の実現をビジョンに掲げ有機エレクトロニクス、生体センサ、食品加工などの分野で、新たな製品やサービスの開発及び社会実装を目指しています。既に、山形大学スマート未来ハウスにおける技術実証、COI発ベンチャー3社の設立、成果の実用化、産学連携のプラットフォーム構築など、幅広い活動を展開しています。地域に根ざしたビジョンの達成に向けて、必要な技術の開発とそれを踏まえたサービス創出に関する一連の活動が高く評価されました。

### 【山形大学COI拠点の概要】

「未来の心豊かで快適・健康な生活・社会を実現する」ことを目標に、人と環境に優しい有機基盤技術と、「印刷」によるデバイス製造技術、デザイン思考及びICTを融合、社会価値イノベーションによる革新的な技術及びシステムを構築する。塗布型を特徴とする有機EL（照明、ディスプレイ）、有機太陽電池、有機トランジスタ（集積回路、生体センサ）、生体親和性材料などの実用化に向けた研究開発を行い、それらの技術を利用したシステムの構築により、働く・暮らす・学ぶ環境において、「生活イノベーション」の実現を目指す。また、地方生活者や高齢者・弱者へも快適・健康で感性豊かな生活を提供することで、労働人口減少や経済・コミュニケーションの問題を解決し、企業が再び元気になり人が活気溢れて生活できる社会を実現する。

### 【評価】

総合評価 ランク	個別評価ランク			
	拠点構想	研究開発/社会実装	プラットフォーム構築	人材育成/活躍促進
S	s	a	s	b

全18拠点のうち、S評価は山形大学を含む7拠点（特に高く評価されたS+の4拠点を含む）

#### お問い合わせ

学術研究院 教授 佐野健志（有機太陽電池・有機エレクトロニクス）  
TEL 0238-26-3585 メール takeshi.sano@yz.yamagata-u.ac.jp

## V3-1 中核機関 山形大学

拠点名	フロンティア有機システムイノベーション拠点
プロジェクトリーダー	三宅 徹 (大日本印刷(株) 執行役員 購買本部長)
研究リーダー	大場 好弘 (山形大学 理事・副学長)

### 1. 拠点の概要

「未来の心豊かで快適・健康な生活・社会を実現する」ことを目標に、人と環境に優しい有機基盤技術と、「印刷」によるデバイス製造技術、デザイン思考及び ICT を融合、社会価値イノベーションによる革新的な技術及びシステムを構築する。塗布型を特徴とする有機 EL (照明、ディスプレイ)、有機太陽電池、有機トランジスタ (集積回路、生体センサ)、生体親和性材料などの実用化に向けた研究開発を行い、それらの技術を利用したシステムの構築により、働く・暮らす・学ぶ環境において、「生活イノベーション」の実現を目指す。また、地方生活者や高齢者・弱者へも快適・健康で感性豊かな生活を提供することで、労働人口減少や経済・コミュニケーションの問題を解決し、企業が再び元気になり人が活気溢れて生活できる社会を実現する。

### 2. 評価ランク

総合評価 ランク	個別評価ランク			
	拠点構想	研究開発/社会実装	プラットフォーム構築	人材育成/活躍促進
S	s	a	s	b

### 3. 項目別評価結果

#### (1) 拠点構想について

過疎化が進む雪国の問題を解決することをビジョンとして掲げており、高齢者の健康向上を図ると共に地域産業を活性化させ、若者人口の増加を目指すストーリーは明解である。

本拠点の研究開発ロードマップにおいては、研究開発の達成度や大学と企業との役割が明示され、産学連携の促進に貢献している。また、社会実装に向けて、課題毎にリーダー企業を選定し、責任を明確にして進めていることも評価できる。

各課題において目指す技術成果や製品・サービスについて、参画企業との連携の中で仕様や目標を定め、研究開発を進めている。それらを世界水準や他社製品と比較し、優位性を明確にすることは、社会実装の実現や将来のイノベーション・プラットフォーム構築に向けて重要である。

#### (2) 研究開発/社会実装について

新たな発光材料や塗布による回路印刷技術など着実な進捗が見られる。息の長いテーマや時間の掛かる社会実装テーマでは、解決の鍵となる課題を設定すると共に、COI プログラム終了時点(平成 33 年度末)に達成する目標を定める必要がある。こうした課題や目標は、



フェーズ3での活動の位置付けを明確にし、新たに構築されるイノベーション・プラットフォームの具体的な活動を形作ることになる。

有機エレクトロニクスは、ヘルスケアや医療関連分野との親和性がよく、特徴ある社会実装が期待でき、それに向けた実証試験も適切に進められている。生活に密着した照明やシートセンサーなど、小規模ながら社会実装が開始された課題もいくつかある。ただし、創出していく製品や事業についての考え方が、開発した技術を起点とした発想になりがちである。サービスや製品の価値を議論する際は、最終ユーザーのニーズを起点に議論し、ニーズを満たす製品等の仕様から課題や解決方法について検討することが大切である。

フェーズ3に入るにあたり、本拠点を代表するような製品・サービスを世の中に出すために、これらのことに留意して開発や事業化のより一層の加速を期待する。

#### (3) プラットフォーム構築について

本拠点は、参画企業のリソース提供額や外部の公的資金の獲得額が大きく、資金的に自立性の高いイノベーション・プラットフォーム構築に向けて、競争領域における民間企業との共同研究の提案や交渉などに積極的に取組んでおり、評価できる。また、有機エレクトロニクス分野における米沢地域産業クラスターと海外産業クラスターとの連携を進めている。

イノベーションの持続的な創出に必要な、充実した学術基盤、技術シーズからのインキュベーション、サービス創出の機能をプラットフォームが保有することが必要である。また、企業と組織対組織で取組むマネジメント体制を構築することも重要であり、今後の進展に期待する。

#### (4) 人材育成・活躍促進について

若手研究者のサブテマリーダーへの登用や大学院生の国際的な共同研究への参加、さらには、中高学生に対して、科学への興味を喚起する活動などを行っている。その中で、女性研究者など多様な人材が活躍する環境を整え、若手研究者が他拠点や異分野の人材と交わり、自由な発想で主体的な活動ができる機会や環境を整えることも、人材育成、ひいては拠点全体の発展に有効である。

### 4. 総合評価結果

地域に根ざしたビジョンの達成に向けて、必要な技術の開発とそれを踏まえたサービス創出に関する一連の活動は、よく検討され運営されており、評価できる。研究開発では着実な進捗が見られるものの、本拠点の実力からすれば、最終ユーザーのニーズを踏まえた社会実装の実現に向けた開発や事業化への取組の更なる進展を期待する。また、イノベーションの持続的な創出に向けて、資金面でも自立的なイノベーション・プラットフォーム構築への取組も着実に進められており、今後、その取組をさらに充実、発展させていただきたい。

# フロンティア有機システムイノベーション拠点 (山形大学COI)

中核機関：山形大学

参画機関：大日本印刷（株）、産業技術総合研究所、東北芸術工科大学、都立産業技術総合研究センター、仙台高等専門学校、積水ハウス㈱、NECライティング㈱、コニカミノルタ㈱、日本ゼオン㈱、㈱カネカ、三菱重工㈱、Lumitec㈱、㈱KEN OKUYAMA DESIGN、伊藤電子工業㈱、東レエンジニアリング㈱、J S R㈱、サトーホールディングス㈱、富士紡ホールディングス㈱、エヌ・デーソフトウェア㈱、日本電気㈱、パラマウントベッド㈱、㈱チカク、㈱保志、帝人㈱、三起商行㈱ <計25機関>



有機材料システムフロンティアセンター

## 目指すべき将来の姿

### 高齢者・地域の生活イノベーション、ヒト・マチ・ココロがつながるスマート高齢化社会の実現



## 2021年度までの達成目標(社会還元)

### ■ 高齢者・地域の「生活イノベーション」を実現する製品やサービスの開発および社会実装

孤立化の解消

高齢化への対応

過疎化への対策

#### ・ 快適な住生活や睡眠、どこでもつながるコミュニケーションの実現

有機EL照明システム、発電する窓、コミュニケーションウォール等を病院や地域等に導入。(2021年度)



#### ・ 健康寿命延伸のための見守りセンシング、自立ヘルスケアの実現

バイタルセンサで被介護者の状態や健康の見守りを行い、介護現場の負担軽減に貢献。2021年度までに1,000施設以上への導入が目標。



#### ・ 産業の振興、事業の創出

拠点への参画企業数：30社  
参画企業及び、大学発ベンチャーによる事業創出



## これまでの主な成果・取組

### ■ スマート未来ハウスで将来の快適空間を実証実験

・ 有機ELの実用化を検証するための実験住宅を建設した。自然光に近い発光スペクトルを有する有機EL照明はサーカディアンリズムを制御するのに相応しく快適な睡眠環境の寝室を設計することができる。多雪地のため屋根上ではなく窓面に半透過型の有機太陽電池を設け発電することが可能になった。



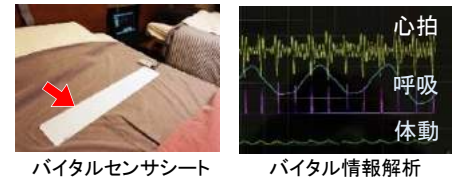
### ■ 地域創生 ～どこでもつながる・冬でも農業～

・ 離れて暮らす家族と有機ELコミュニケーションウォールを介して繋がることができる。また有機ELディスプレイの開発により訪問診療環境に依存せず肌色や血管が見易く診断・処置の精度を上げることが可能にした。更に雪深い冬の農業効率改善を目指し、有機EL照明による植物生育促進を実証。



### ■ 印刷型バイタルセンサシート製品化、介護現場で実証

・ 就寝中のバイタル情報(脈拍・呼吸・体動等)を非接触、非拘束でセンシングできる有機バイタルセンサシートを開発し介護現場で実証試験を開始した。将来的には在宅介護の際に、就寝中の健康、安心安全確保に役立てることができる。



### ■ COI発ベンチャー3社設立

(株)フューチャーインク  
印刷型バイタルセンサ、銀ナノインクの製造販売



(株)フラスク  
有機発光材料の開発及び製造販売



(株)ベジア  
常温乾燥技術による機能性食材を製造販売

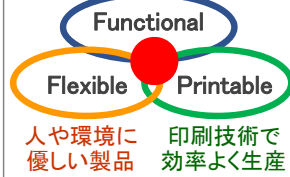


## イノベーション基盤・技術基盤

世界屈指  
有機エレクトロニクス  
材料技術  
塗布デバイス形成技術



高機能材料を活かした  
有機エレクトロニクス



令和元年(2019年)6月20日  
山形大学

\*詳細は別添の資料をご覧ください。

## 1. 第15回学長特別講演会「観光立国日本、地方が日本を引っ張る時代」を開催

山形大学の3つの使命「地域創生」「次世代形成」「多文化共生」を発信するため、シリーズで開催している学長特別講演会の第15回目の開催が決定しました。今回は、講師に観光庁の田口芳郎参事官をお迎えします。

テーマ：観光立国日本、地方が日本を引っ張る時代

日時：7月8日(月)16:30～18:00

場所：山形大学小白川キャンパス C1（人文社会科学部1号館）301

## 2. 「農場市」6月27日（木）よりスタート！

農学部の活動を広く周知し、生産から販売まで学生が体験することを目的に毎年6月から12月初め頃までの期間限定で開催しています。附属農場で生産された採りたての農作物・加工品を販売します。

日時：6月27日（木）～ 毎週木曜日 12:00～13:00

場所：山形大学鶴岡キャンパス内特設会場（旧国道7号線沿いの特設会場）

## 3. 地域教育文化学部公開講座「データサイエンス入門」を開催

地域教育文化学部の公開講座のご案内です。2日間で90分×3コマのデータサイエンスに関する講習を行います。

日時：8月24日（土）13:00～16:00、8月31日（土）10:30～12:00

会場：山形大学小白川キャンパスA7（地域教育文化学部1号館）情報処理実習室

受講料：1,000円

## 4. “東北野生動物管理研究交流会 in やまがた”を開催します

人口減少社会における野生動物との共存を議論する研究交流会を、山形大学が拠点となり、2014年度より毎年開催しています。東北各地の昨今の取り組み事例から課題を共有・整理し、問題解決に向けた産官学の役割について議論します。

日時：8月31日（土）10:00～16:10

会場：山形テルサ アプローチ



学長特別講演会シリーズ～山形から世界へ～

日時

2019年7月8日(月)

16:30～18:00

会場

小白川キャンパス C1

人文社会科学部1号館301教室

問い合わせ・お申込みは

総務部広報室

(E-mail [koho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp](mailto:koho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp))

観光立国日本

# 地方が日本を 引っ張る時代



講師 **田口芳郎** 氏

(国土交通省観光庁参事官(外客受入担当))

1995年運輸省(現国土交通省)入省。米国留学や鹿児島県出向を経験し、2009年に国土交通省に復帰。2013年からは在米国日本国大使館参事官として対米外交の一翼を担う。2016年に帰国後、安倍政権の地球儀俯瞰外交の一環として対外発信強化等を担当。2018年に観光庁参事官に就任し、2020年訪日外国人旅行者数4000万人の政府目標の達成に向けて活躍中。

# 山形大学 学長特別講演会



「山形から世界に通用する技術やプロダクト・学術研究をどんどん生み出そう。そして、山形を元気にして地域創生につなげよう」というコンセプトを広く発信し、定着させるため、学生、教職員、高校生、一般市民を対象とした学長主催の特別講演会を定期的を開催しています。

## 第15回講演会

# 「観光立国日本 ～地方が日本を引っ張る時代～」

【講師】 国土交通省観光庁参事官（外部受入担当）

田口 芳郎 （たぐち よしろう）氏

昨年の外国人観光客の数は3119万人。2013年では1000万人強だったことを思うと大変な伸びです。ただ、こうした観光客は東京、大阪、京都などの都市部に集中しており、まだまだ地方にまでは広がっていません。今後、地方がその魅力を発信し、世界からの観光客を呼び込んでいけば、地方の経済や文化の活性化につながることは間違いありません。では、それはどうすれば実現できるのでしょうか。講演会では、ぜひ皆さんと共に考えていきたいと思えます。



### 参加申込について

氏名（ふりがな）、年齢（学生は学部・学科）を記入し、下記までメール等でご連絡ください。

送信先： 山形大学広報室  
koho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

### 交通・会場ご案内

JR山形駅下車、バスで約10分  
※駐車場がございません。

シャトルバスか公共交通機関をご利用下さい。



令和元年（2019年）6月20日

## 「農場市」6月27日（木）よりスタート！

### 【本件のポイント】

- 6月27日（木）から、農学部の学生・職員らが実習農場である農学部附属やまがたフィールド科学センター高坂農場で育てた農産加工品の販売を開始。今年で11年目。
- 農学部の活動を広く周知する機会
- 生産から販売までを学生自らが体験



### 【概要】

山形大学農学部では、6月27日（木）から鶴岡キャンパス内の特設会場にて、附属農場で生産された採りたての農作物・加工品の販売を開始します。6月から12月初め頃まで、毎週木曜日の正午から鶴岡キャンパス正門近くのガレージで販売。商品がなくなり次第終了となります。

農学部の活動を広く周知し、生産から販売まで学生が体験することを目的に毎年期間限定で開催しており、今年で11年目となります。完熟トマト、枝豆、在来野菜、リンゴといった新鮮な農産物のほか、農場産のリンゴやブルーベリーを加工して作ったジュースやジャム、学生が実習で栽培したお米など様々な品目を販売します。また、寄附講座（食料自給圏「スマート・テロワール」形成講座）による加工品も販売予定です。

### 【販売物】

完熟トマト、枝豆、在来野菜、リンゴといった新鮮な農産物のほか、農場産のリンゴやブルーベリーを加工して作ったジュースやジャム、学生が実習で栽培したお米など。寄附講座（食料自給圏「スマート・テロワール」形成講座）による加工品も販売予定。

### 【日時・場所】

\* 日時：令和元年6月27日（木）～ 毎週木曜日 12：00～13：00  
（品物がなくなり次第終了とさせていただきます）

\* 場所：山形大学農学部キャンパス内（旧国道7号線沿いの特設会場）



▲昨年のポスター



▲海外からの研修生にも大好評

お問い合わせ

鶴岡キャンパス事務室（附属施設担当）

TEL 0235-24-2278

メール [nogyomu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp](mailto:nogyomu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp)

令和元年（2019年）6月20日

## 地域教育文化学部公開講座「データサイエンス入門」を開催

### 【本件のポイント】

- データサイエンスのなかでも初歩的な統計学リテラシー、人工知能について紹介、さらに実践学習を通じてデータサイエンスに触れる
- 1日目は、統計学の基礎として「標本調査とその周辺」について入門的な解説をした後、コンピュータ上で統計分析を実行し、体験する
- 2日目は、最近話題の人工知能を取り上げ、機械学習の仕組みについて簡単に触れた後、実際に人工知能に学習する



### 【概要】

今年度の地域教育文化学部の公開講座は、「データサイエンス入門～統計リテラシーを高めよう&人工知能を体験しよう～」です。2日間にわたって、データサイエンスのなかでも初歩的な統計学リテラシー、人工知能について紹介します。さらには、実践学習を通じてデータサイエンスに触れていただきます。参加対象は、一般市民・大学生・高校生と幅広い層の方にご参加いただけます。

### 「データサイエンス入門～統計リテラシーを高めよう&人工知能を体験しよう～」

本講座では、2日間で合計90分×3コマのデータサイエンスに関する講習を行います。

世間を賑わせている統計不正問題。本来は「全数調査」すべきところを「標本調査」で済ませていたことに端を発しています。このようなニュースを耳にすると、「標本調査」に悪いイメージを持ってしまいかねません。しかし、「標本調査」は中学・高校でも学ぶべき正しい方法論で、現代の統計学の基礎になっています。

本講座では、「標本調査とその周辺」について入門的な解説をします。また、サンプルデータを使って実際にコンピュータ上で統計分析を実行し、標本調査の結果がどれくらい信用できる（あるいは、できない）ものなのかを体験します。本講座を通じて、今よりも統計リテラシーを高めることが目標です。なお、難易度は高校文系数学程度（数式は極力使わない）を想定しています。

講座の後半では最近話題の人工知能を取り上げます。人工知能を実現する仕組みとして今最も利用されているのが機械学習です。本講座では、機械学習の仕組みについて簡単に触れた後、実際に人工知能に学習させる実習を行います。最初は簡単な例として、コンピュータに『2と言えば4』、『5と言えば10』、『7と言えば14』、『…』と例を教えた後で、「では、3と言えば？」と聞くと「6」と答える人工知能を作成します。最終的には、漫画のセリフや登場人物の名前を自動で生成するような人工知能を目指します。

- ◆日 時：8月24日（土）13：00～16：10 統計リテラシー  
8月31日（土）10：30～12：00 人工知能
- ◆場 所：地域教育文化学部1号館 情報処理実習室
- ◆対 象：一般市民・大学生・高校生（定員25名）
- ◆受講料：1,000円
- ◆申 込：7月31日（水）までに電話でお申し込みください。

#### お問い合わせ

山形大学小白川キャンパス事務部 総務課 総務担当（地域教育文化学部）  
TEL 023-628-4304

## データサイエンス入門

～統計リテラシーを高めよう&amp;人工知能を体験しよう～

2日間  
開講

## ◇ 本講座では、2日間で合計90分×3コマのデータサイエンスに関する講習を行います

世間を賑わせている統計不正問題。本来は「全数調査」すべきところを「標本調査」で済ませていたことに端を発しています。このようなニュースを耳にすると、「標本調査」に悪いイメージを持ってしまいかねません。しかし、「標本調査」は中学・高校でも学ぶ由緒正しき方法論で、現代の統計学の基礎になっています。本講座では、「標本調査とその周辺」について入門的な解説をします。また、サンプルデータを使って実際にコンピュータ上で統計分析を実行し、標本調査の結果がどれくらい信用できる（あるいは、できない）ものなのかを体験します。本講座を通じて、今よりも統計リテラシーを高めることが目標です。なお、難易度は高校文系数学程度（数式は極力使わない）を想定しています。

講座の後半では最近話題の人工知能を取り上げます。人工知能を実現する仕組みとして今最も利用されているのが機械学習です。本講座では、機械学習の仕組みについて簡単に触れた後、実際に人工知能に学習させる実習を行います。最初は簡単な例として、コンピュータに『2と言えば4』、『5と言えば10』、『7と言えば14』、『...』と例を教えた後で、「では、3と言えば？」と聞くと「6」と答える人工知能を作成します。最終的には、漫画のセリフや登場人物の名前を自動で生成するような人工知能を目指します。

日 時

2019年

8月24日(土)

13:00～16:10  
統計リテラシー

2019年

8月31日(土)

10:30～12:00  
人工知能

場 所

山形大学 地域教育文化学部 1号館  
情報処理実習室

受講対象

一般市民・大学生・高校生

募集人数

25人

受講料

1,000円

どちらか1日のみの参加も可能です

お申込先・お問い合わせ先



山形大学

Yamagata University

〒990-8560 山形市小白川町一丁目4-12

小白川キャンパス事務部 総務課  
総務担当(地域教育文化学部)

023-628-4304

7月31日(水)  
までにお電話で  
お申し込み  
ください



令和元年（2019年）6月20日

## “東北野生動物管理研究交流会 in やまがた”を開催します

### 【本件のポイント】

- 2019年8月31日（土）に、野生動物に由来する様々な問題を議論する産官学連携の研究交流会を山形テルサ/アプローズ（山形市）にて開催します
- 交流会では、「人口減少社会における森林管理の展望」、「野生動物とともに広がるダニ由来の感染症の現況」に関するシンポジウムを開催します。
- 一般参加可能なポスターセッションも設けます。



昨年度の交流会の様子

### 【概要】

人口減少社会における野生動物との共存を議論する研究交流会を、山形大学が拠点となり、2014年度より毎年開催しております。第6回目となる山形大会では、以下の3部からなる企画を開催予定です。

第1部では野生動物の生息環境でもあり、木材をはじめとした自然資源の生産の場でもある森林の管理に焦点をあてます。ここでは特に「人口減少社会」をキーワードに、持続可能な森林利用を模索する作業を通して、森林管理と野生動物管理の有機的な連携とは何かを検討していくための知見をご紹介します。第2部では、野生動物の生態や管理に関わる研究や事業の紹介を通して、情報の発信と共有を促進することを目的とした恒例のポスターセッションを開催します。第3部では、野生動物の分布拡大がもたらすリスクの一つである、人獣共通感染症について焦点を当てます。ここでは特に、森林性哺乳類とともに広がるダニ由来の感染症の脅威と対策についてをご紹介します。

### 【東北野生動物管理研究交流会 in やまがた】

#### 1. 研究交流会の位置づけ

野生動物によってもたらされる産業・生活基盤への影響は、深刻な社会問題として広く議論されるようになりました。これら問題の主因として、野生動物の個体数の増加と同時に、農村や、その周辺域における急速な人口減少が考えられます。そのため、人口減少率が高い東北において、縮小社会に適応した新たな野生動物管理システムの構築が今まさに求められています。この研究交流会では、東北各地の昨今の取り組み事例から課題を共有・整理し、問題解決に向けた産官学の役割について議論していきます。

#### 2. 今年度の交流会の概要

第1部：人口減少時代の森林管理（進行：江成 広斗 山形大学学術研究院）

講演1 人口減少時代の森林管理戦略：野生動物管理との接点を探る：相川 高信（林業政策アントレプレナー）

講演2 森林管理の担い手の長期的変化：林 雅秀（山形大学学術研究院）

第2部：ポスター発表

第3部：拡大する森林性哺乳類とダニ由来の感染症（進行：斎藤 昌幸 山形大学学術研究院）

講演1 人獣感染症の観点からの外来種管理のあり方を考える：亘 悠哉（森林総合研究所）

講演2 野生動物管理でマダニ類による吸血リスクを低減できるのか？：飯島 勇人（森林総合研究所）

日時： 2019年8月31日（土） 10時00分～16時10分（開場9時30分）

会場： 山形テルサ アプローズ

申込み： 8月2日（金）締切、先着250名（参加費は無料）

主催： 東北野生動物管理研究交流会実行委員会/東北森林科学会/（同）東北野生動物保護管理センター

後援：「野生生物と社会」学会

#### お問い合わせ

学術研究院准教授（森林動物管理学）江成広斗

TEL 0235-28-2925 メール enari@tds1.tr.yamagata-u.ac.jp

お申込み（以下特設サイトにアクセスしてください）<https://four-m.jp/tykk2019/>

# 人口減少時代の森林管理

人口減少時代の森林管理戦略:野生動物管理との接点を探る  
相川 高信 氏 (林業政策アントレプレナー)

森林管理の担い手の長期的変化  
林 雅秀 氏 (山形大学学術研究院)

## 第6回 東北野生動物管理 研究交流会



### 拡大する森林性哺乳類と ダニ由来の感染症

人獣感染症の観点からの外来種管理のあり方を考える

三條 雅也 氏 (国立研究開発法人 森林総合研究所)

野生動物管理でマダニ類による吸血リスクを低減できるのか？

飯島 勇人 氏 (国立研究開発法人 森林総合研究所)

2019年  
8月31日(土)  
10時00分  
- 16時10分

会場  
山形テルサ  
アプローズ  
入場無料

申し込み  
締切 8月2日(金)  
定員 先着250名

ポスター発表  
野生動物に  
関する事例紹介  
募集中!

懇親会  
参加者の皆様と  
交流しましょう!

[主催] 東北野生動物管理研究交流会実行委員会 / 東北森林科学会 / 合同会社東北野生動物保護管理センター

[後援] 「野生生物と社会」学会

[研究交流会実行委員] 山形大学: 林田光佑、江成広斗、斎藤昌幸 / 山形県森林研究研修センター: 齊藤正一

合同会社東北野生動物保護管理センター: 宇野壮春、関健太郎、鈴木淳 / 雪国野生動物研究会(事務局): 江成はるか

## ● 交流会の位置づけ

野生動物によってもたらされる産業・生活基盤への影響は、深刻な社会問題として広く議論されるようになりました。これら問題の主因として、野生動物の個体数の増加と同時に、農村や、その周辺域における急速な人口減少が考えられます。そのため、人口減少率が高い東北において、縮小社会に適応した新たな野生動物管理システムの構築が今まさに求められています。この研究交流会では、東北各地の昨今の取り組み事例から課題を共有・整理し、問題解決に向けた産官学の役割について議論していきます。

## 第6回 東北野生動物管理 研究交流会



開催趣旨

09:30 開場

10:00-10:15 開会挨拶・趣旨説明

### 10:15-11:55 第1部 人口減少時代の森林管理

講演1 人口減少時代の森林管理戦略:野生動物管理との接点を探る  
相川 高信(林業政策アントレプレナー)

講演2 森林管理の担い手の長期的変化  
林 雅秀(山形大学学術研究院)

11:55-13:00 昼食・休憩

### 13:00-14:20 第2部 ポスター発表 野生動物による事例紹介

※野生動物に関する事例のみを対象とします。愛玩動物は含まれませんのでご了承ください。  
※企業ブースはポスター発表のみとさせていただきます。  
※発表をご希望の方は、お申込みの際に入力下さい。  
※サイズは、縦120cm×幅90cmとなっております(A0縦サイズが入るサイズ)。

### 14:20-16:00 第3部 拡大する森林性哺乳類とダニ由来の感染症

講演1 人獣感染症の観点からの外来種管理のあり方を考える  
亘 悠哉(国立研究開発法人 森林総合研究所)

講演2 野生動物管理でマダニ類による吸血リスクを低減できるのか?  
飯島 勇人(国立研究開発法人 森林総合研究所)

16:00-16:10 総括・閉会挨拶

### 18:00-20:00 懇親会 参加者の皆様と交流しましょう!

## ● 今年度の交流会の目的

今年度の交流会は3部で構成されています。第1部では野生動物の生息環境でもあり、木材をはじめとした自然資源の生産の場でもある森林の管理に焦点をあてます。ここでは特に「人口減少社会」をキーワードに、持続可能な森林利用を模索する作業を通じて、森林管理と野生動物管理の有機的な連携とは何かを検討していくための知見をご紹介します。

第2部では、野生動物の生態や管理に関わる研究や事業の紹介を通して、情報の発信と共有を促進することを目的とした恒例のポスターセッションを開催します。

第3部では、野生動物の分布拡大がもたらすリスクの一つである、人獣共通感染症について焦点を当てます。ここでは特に、森林性哺乳類とともに広がるダニ由来の感染症の脅威と対策についてをご紹介します。

ポスター発表者  
募集中  
(先着30題)

## ● お申込み先

研究交流会実行委員会 事務局  
<https://four-m.jp/tykk2019/>

## ● お問い合わせ先

tohoku.wildlife@gmail.com  
※メールでのお申し込みは承っておりません。

## ● 懇親会費振込先

ゆうちょ銀行 普通預金  
店番 853  
口座番号 2335465  
口座名義人 エナリハルカ

申込締切 2019年8月2日(金)

## ● 交流会会場 山形テルサ アプローチ

住所 山形県山形市双葉町1-2-3  
交通 JR山形駅より徒歩10分  
駐車場 なし(周辺に有料駐車場がありますが、駐車台数には限りがございますので、公共の交通機関もご利用くださいよう、お願いいたします。)  
定員 先着250名  
会費 無料

## ● 懇親会会場 ヤマコーホール

住所 山形市香澄町3丁目2-1山交ビル7F  
定員 先着100名  
会費 (一般)5,000円 (学生)3,000円  
※事前の申込みが必要です。当日参加は受け付けておりませんので、ご注意ください。